

(富樫) こんにちは皆さん。第38回岐阜シンポジウムでは「木曾・長良・揖斐の歴史、自然、地域づくりを考える」というテーマを掲げました。

1つはこの濃尾平野に、木曾川、長良川、揖斐川が流れていて、その中で我々が生活しているのですが、もう1つは、名古屋大学と岐阜大学が東海国立大学機構として1つの組織になったということもあります。入り口のところに展示がありますが、今日は名古屋大学の石川先生からもお話ししていただくんですが、石川先生は木曾三川の流域の江戸時代の古文書の地図を通じて流域を研究してらっしゃると言うことで、これはラッキーだなと。岐阜大学、名古屋大学が一緒になることで、もう一つは、歴史・自然、人間・社会ということ、総合的に考えるという非常に良い学びの場になるということで、今回の企画を考えてやることになりました。

短い時間ではありますが、様々な専門分野の先生方からご報告を頂いて、お互いに重なる話もありますし、多少違う見方も専門によりあると思いますし、意見交換をしていきたいと思います。それではまず、岐阜大学の森脇(前)学長よりご挨拶をいただきたいと思います。

森脇学長の挨拶

(森脇久隆・岐阜大学長) 皆さんこんにちは。只今、ご紹介いただきました岐阜大学長の森脇でございます。今日は第38回岐阜シンポジウム「木曾・長良・揖斐の歴史、自然、地域づくりを考える」ということでご案内を差し上げましたところ、オンサイトとオンライン合わせていつものシンポジウムよりも大勢の方にご登録いただきありがとうございます。

本当にこのテーマは面白いんです。全国どこでもそうだと思いますが、特に岐阜と言う地をより深く理解するには川の流れと街道の走り方ですね。その当りのことをしっかりとらえて理解が深くなると私自身考えております。経済地理学、歴史地理学、交通地理学等の分野になると思いますが、この領域で、富樫先生はナンバーワンの存在だと僕は思っています。以前、NHKでも「プラタモリ」で岐阜の河川沿いを紹介する時に、富樫先生が引っ張り出されました。同様の話題を含め、より広い視野から「木曾・長良・揖斐の歴史、自然、地域づくり」を捉えようというのが今日の企画ですので、大いにお楽しみいただけるかと思います。

特に富樫先生が先程触れられた「高木家文書」の中で、今日展示されている地図(p.21)には川のみでなく中山道、美濃路、岐阜街道なども書き込まれ、川と街道が非常によく分かる楽しい地図です。また、岐阜市内の長良川について申し上げますと、現在の流路になってからまだ100年経ってないです。この近所では正木マーサの南側に「古川東」、「古川西」という交差点がありますが、古川と言うのは長良古川のこと、そこを東西方向に川が流れていました。またこの近所に繰舟橋がございますが、あれは鵜飼にちなんだ名前なんです。

そういった観点から今日のシンポジウムを聞いて頂くと、この地をより深く理解出来るようになるかと期待しています。岐阜県は「ふるさと教育」を謳っています。岐阜市は「シビックプライド」、岐阜大学は「teach for community」と言っています。狙いは共通で、ふるさとについて知り、好きになり、そのことを外に説明できるようになることです。このシンポジウムが皆様方にとって実りの多いものになることを期待し、3時間弱、長時間ではございますが、どうぞよろしくお付き合い下さいますようお願いし、ご挨拶とさせていただきます(拍手)

(富樫) 森脇先生、どうもありがとうございました。森脇先生も地域のことに非常にご関心がありますので、いろいろお話をさせていただきました。